

基盤教育集中講義

平成27年度

フィールド

ワーク



ハンドブック

共生の森もがみ



自然、環境、文化、歴史、ひと
五感を研ぎ澄ませて
「もがみ」を感じる



 山形大学エリアキャンパスもがみ

目次

Contents

授業開設のメッセージ	02
授業計画(シラバス)	03
フィールドワークプログラムマップ	05
アイコンの説明	07

前期

「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～	09
「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界	10
環境保全活動を通じた自然との共生	11
地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	12
山間地の宝物を見つけよう	13
歴史浪漫! 谷口銀山を探れ	14
森と人との共存を考えるⅠ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	15
里地里山の再生Ⅰ	16
地域から元気と力を! 伝承文化活性化プロジェクト	17
子ども達の自然体験活動支援講座Ⅰ	18
美しいむら大蔵村の自然・文化・人にふれる	19
鮭川の伝統芸能・鮭川歌舞伎を学ぼう!	20
戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生き様に学ぶ	21
里山保全・炭焼きと山菜料理づくり	22
夏秋野菜の栽培と郷土料理づくり	23

後期

まちの図書館を舞台にイベントプロデュース ～図書館まつりをジャック!する～	25
体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」	26
七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	27
山間地の文化を掘り起こそう!	28
森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	29
冒険家と語り、地域の伝統文化に触れよう	30
里地里山の再生Ⅱ	31
子ども達の自然体験活動支援講座2	32
創作太鼓と冬の里山ぐらし体験	33



五感を研ぎ澄ませて

「もがみ」を感じてほしい

山形県最上広域圏は南西に最上川が流れ、大部分が山岳・丘陵地帯の自然豊かで、市町村毎に独自の文化を有する農山村地帯ですが、一方で8市町村のうち6町村が「過疎地域自立促進特別措置法」に基づく過疎地域に指定されています。大学や短期大学などの高等教育機関が一つもない最上広域圏では、長らく大学誘致を悲願としてきました。この要望に応える形で、平成17年4月、山形大学「エリアキャンパスもがみ」は発足しました。

この科目は、地域固有の本物の自然や地域に根差した歴史・文化を活用して、『環境』と『人』とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生諸君に直に感じてもらう科目として企画されました。教育研究施設がないハンディキャップを逆手に取り、個性豊かな8つの市町村をそのまま教育のフィールドとするダイナミックな授業は、他に類を見ない授業であり、自然に恵まれた山形大学でしか実現できないものです。また、受け入れ側の各市町村が、地域の特色を表す講師を提供するとともに、授業実施の全般を担当する形で行われることも特長の一つです。

大学のキャンパスから、広大な最上広域圏に飛び出し、自然・環境・文化・歴史・ひとを体全体で感じながら、自らの成長に役立つ何かを見つけてください。五感をとぎすませば、宝物はすぐ近くにあります。最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。

山形大学エリアキャンパスもがみキャンパス長

小白川キャンパス長 北川 忠明

授業計画 (シラバス)

授業科目名:

前期 フィールドワーク-共生の森もがみS (地域学)

後期 フィールドワーク-共生の森もがみT (地域学)

担当教員:教育開発連携支援センター教員

担当教員の所属:教育開発連携支援センター

開講学年:1年,2年,3年,4年 開講学期:前期・後期

単位数:2単位 開講形態:演習

授業概要

テーマ

自然豊かな最上広域圏でのフィールドワークを通して、地域、文化、歴史、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えます。この科目は、最上広域圏の8市町村そのものをキャンパスとして活動を展開する授業科目として創出されました。この地域を舞台に、「達人講師」の指導の下、8市町村選りすぐりのプログラムが展開されます。もがみを知ることは、山形を知り、日本を知り、ひいては世界を知ることにつながっていきます。山形大学に来て良かったと思える授業です。

到達目標

「課題発見能力」、「課題探求能力」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」、「行動力」、「社会性」の基礎的な力を身につけることを目標とします。

キーワード

エコキャンパス、地域活性化、住民との交流、実地体験、プレゼン能力の向上

科目の位置づけ

教養科目における「山形に学ぶ」という領域の科目です。基盤教育の基本姿勢(人間力を育成し、自律した個人として社会における責任を果たす態度・志向性を身につける)を最上地方というフィールドで直接的に身につけることができます。

授業計画

授業の方法

この授業は、各自が以下のプログラムから1つを選択して受講します。各プログラムは、1泊2日のフィールドワーク(以下「FW」)×2回を中心とし、事前学習、中間学習、事後学習を行います。各回のFW終了後に「活動の振り返り(レポート)」、2回目のFW終了後に「私はもがみで考えた! (レポート)」を提出してもらいます。また、授業終了後に「活動報告会」を行います。

前期

- ①「新庄まつりとオレ」～日本一の山車行列～(新庄市)
- ②「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界(新庄市)
- ③環境保全活動を通じた自然との共生(新庄市)
- ④地域の資源を活かし山屋の魅力を探る(新庄市)
- ⑤山間地の宝物を見つけよう(金山町)
- ⑥歴史浪漫!谷口銀山を探れ(金山町)
- ⑦森と人との共存を考えるI～山間地の歴史を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑧里地里山の再生I(舟形町)
- ⑨地域から元気と力を!伝承文化活性化プロジェクト(真室川町)
- ⑩子ども達の自然体験活動支援講座I(真室川町)
- ⑪美しいむら大蔵村の自然・文化・人にふれる(大蔵村)
- ⑫鮭川の伝統芸能・鮭川歌舞伎を学ぼう!(鮭川村)
- ⑬戸沢村の超元気印!高齢者集団の生き様に学ぶ(戸沢村)
- ⑭里山保全・炭焼きと山菜料理づくり(戸沢村)
- ⑮夏秋野菜の栽培と郷土料理づくり(戸沢村)

- ① まちの図書館を舞台にイベントプロデュース～図書館まつりもジャック!する～(新庄市)
- ② 体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」(新庄市)
- ③ 七所明神伝説と地域活動のあり方を探る(新庄市)
- ④ 山間地の文化を掘り起こそう!(金山町)
- ⑤ 森と人との共存も考えるⅡ～山間地の歴史を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑥ 冒険家と語り、地域の伝統文化に触れよう(最上町)
- ⑦ 里地里山の再生Ⅱ(舟形町)
- ⑧ 子ども達の自然体験活動支援講座2(真室川町)
- ⑨ 創作太鼓と冬の里山ぐらし体験(戸沢村)

→ 授業日程 →

① 各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査

前期 4月15日(水) 16:30～
基盤教育2号館 221教室

後期 10月7日(水) 16:30～
基盤教育2号館 221教室

② オリエンテーション 班編制・顔合わせ・FWの心構えについて

前期 5月11日(月) 16:30～
基盤教育2号館 221教室

後期 10月28日(水) 16:30～
基盤教育2号館 221教室

③ FWの実施(プログラムによって実施日程が異なります。6頁参照)

前期 5月16日(土)～7月26日(日)

後期 10月31日(土)～1月10日(日)

④ 活動報告会

前期 7月24日(金) 16:30～
基盤教育2号館 221教室

後期 2月5日(金) 16:30～
基盤教育2号館 221教室

学習の方法

▼受講のあり方
安全に気を配りながら、楽しんでFW活動に臨んでください。

▼授業時間外学習へのアドバイス
(予習) インターネットなどで事前下調べをして臨めば、FWが実りあるものになります。1回目の活動の前に事前学習を、2回目の活動の前に中間学習を行い、その成果をウェブクラスに書き込んでもらいます。

(復習) 各FWの活動報告を丹念に取りまとめてください。自分の活動を記録する作業が必要です。専用のレポート用紙への記入と「ウェブクラス」への書き込みにより、提出してもらいます。

成績の評価

▼基準
この授業は、FWでの活動が基本です。事前学習や活動の振り返りを丁寧にまとめてください。毎回の活動報告で授業への参加意識を評価します。

▼方法

FW活動への参加	30%
講師の活動評価	40%
活動報告会での発表	20%
受講生相互評価	10%

テキスト・参考書

選択希望調査の際には、このハンドブックを、フィールドワーク活動の際には、オリエンテーションで配付する「フィールドワークの手引き」としおりを携帯してください。

その他

▼学生のみなさんへのメッセージ

最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて(味わって)、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。大学から最上広域圏までは借り上げバスを利用し、最上広域圏内の移動は、各市町村で手配します。プログラムによっては、宿泊や実技体験を伴いますので、参加費が必要となります。(詳細は、前期4月15日(水)、後期10月7日(水)の「各プログラムの紹介」の際に説明します。)

▼オフィス・アワー

オフィス・アワーはありませんが、この授業の運営に協力する小白川キャンパス事務部教務課の事務職員が窓口にあたります。
(学生センター内エリアキャンパスもがみ事務局・小白川キャンパス事務部教務課:023-628-4707)

フィールドワーク プログラムマップ



前期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①「新庄まつりとオレ」 ～日本一の山車行列～	新庄市	6月20-21日	7月11-12日
②「作陶に挑戦」新庄東山焼の世界	新庄市	6月6-7日	7月18-19日
③環境保全活動を通じた自然との共生	新庄市	6月6-7日	6月27-28日
④地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	新庄市	6月6-7日	7月11-12日
⑤山間地の宝物を見つけよう	金山町	6月27-28日	7月25-26日
⑥歴史浪漫！谷口銀山を探れ	金山町	5月30-31日	7月18-19日
⑦森と人との共存も考えるⅠ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	金山町	6月13-14日	7月18-19日
⑧里地里山の再生Ⅰ	舟形町	5月16-17日	5月30-31日
⑨地域から元気と力を！ 伝承文化活性化プロジェクト	真室川町	6月13-14日	7月11-12日
⑩子ども達の自然体験活動支援講座Ⅰ	真室川町	6月6-7日	7月11-12日
⑪美しいむら大蔵村の自然・文化・人にふれる	大蔵村	5月30-31日	6月6-7日
⑫鮭川の伝統芸能・鮭川歌舞伎を学ぼう！	鮭川村	6月13-14日	7月11-12日
⑬戸沢村の超元気印！ 幸齢者集団の生き様に学ぶ	戸沢村	5月30-31日	6月27-28日
⑭里山保全・炭焼きと山菜料理づくり	戸沢村	5月30-31日	6月27-28日
⑮夏秋野菜の栽培と郷土料理づくり	戸沢村	6月13-14日	7月25-26日



最上町

6

47

後期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①まちの図書館を舞台にイベントプロデュース ～図書館まつりをジャック！する～	新庄市	11月14-15日	11月28-29日
②体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦！」	新庄市	11月7-8日	11月14-15日
③七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	新庄市	11月7-8日	1月9-10日
④山間地の文化を掘り起こそう！	金山町	10月31日・ 11月1日	12月5-6日
⑤森と人との共存も考えるⅡ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	金山町	12月5-6日	1月9-10日
⑥冒険家と語らい、 地域の伝統文化に触れよう	最上町	10月31日・ 11月1日	11月7-8日
⑦里地里山の再生Ⅱ	舟形町	10月31日・ 11月1日	11月21-22日
⑧子ども達の自然体験活動支援講座2	真室川町	11月21-22日	1月9-10日
⑨創作太鼓と冬の里山ぐらし体験	戸沢村	12月5-6日	1月9-10日



アイコンについて

プログラムの内容やジャンルを分かりやすく示しています。

アイコンは8つに分類されておりますので、
プログラム選択時の参考としてください。

1.料理体験・調理実習



地域の方々と一緒に郷土料理づくりやそば打ちなどを行います。

2.イベント運営・祭り体験



イベントやお祭りの企画立案や運営のお手伝いなどを行います。

3.工芸品・民芸品づくり



陶芸や地域に伝わる伝統工芸などを製作します。

4.子ども達とのふれあい・交流



子ども達と一緒に遊んだり、活動したりします。

5.トレッキング・自然散策



自然に触れながら山登りや、生物の調査などを行います。

6.農業体験



田植えや収穫体験、山菜採りなどを行います。

7.環境保全活動



河川や森の環境整備や保護活動を行います。

8.雪上活動



雪かきや雪遊びなどを行います。



前期





目的・概要

「新庄まつり」は、毎年8月24日から26日までの3日間にわたって開催され、50万人の人出でにぎわう東北有数の祭りとして、また、東北の夏祭りをしめくくるにふさわしい伝統の祭りとして、脚光を浴びている。平成21年には、国重要無形民俗文化財にも指定され、さらに知名度は上昇している。

そのまつりのメインを飾るのが豪華絢爛な山車(やたい)パレードである。本講義では、まつり本番を控え、街中がまつり一色となっている新庄市を体感し、地域の伝統を誇る「新庄まつり」の魅力、大学生の視点で探してほしい。

授業計画

1回目の訪問

平成27年6月20日、21日

- ①日目 1. ガイダンス
2. 活動計画
- ②日目 3. 活動体験
4. 実習

2回目の訪問

平成27年7月11日、12日

- ①日目 1. 活動体験
2. 実習
- ②日目 3. 活動体験
4. 実習

講師・担当者

新庄山車連盟会長 伊東洋一
新庄山車連盟副会長 川崎昭栄
新庄山車連盟顧問 林 泰夫、野川北山
(山車人形師)
新庄山車連盟相談役 羽賀千尋

昨年受講生の感想 農学部 清水 菜央

私はこのプログラムで新庄まつりの歴史や山車と若連、野川家との関わりを学んだり、山車作りや囃子を体験し地元の人々の生の声を聞いたりすることで、今まで何度も行ったことのある新庄まつりの新たな一面を知ることができました。

少子化が進んでいたり、山車作りではなくお囃子に行ってしまう若者が多いということがあっても、子どもが親の姿を見てまつりが受け継がれていくことが続いていってほしいと強く思いました。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課



目的・概要

1842年の開窯以来、5代にわたり受け継がれてきた新庄東山焼の伝統と芸術性あふれる焼き物の魅力を実体験することができる。東山焼ならではの土や釉薬作り、焼き方を6代目が分かりやすく解説する。ろくろ回し体験や自分の作った作品を記念に残すことができるのも本プログラムの魅力の一つである。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年6月6日、7日

- ① 1日目 1. 講義 焼き物の歴史
2. 山から粘土取り
3. 匠の実演とろくろ回し体験①
- ② 2日目 1. 各地の有名な焼き物比較
2. 皿づくり実習
3. ろくろ回し体験②

2 回目の訪問

平成27年7月18日、19日

- ① 1日目 1. 講義 釉薬の歴史
2. 釉薬調合体験
3. 釉薬を焼き物につける体験
- ② 2日目 1. 本焼き作業：窯つめ&窯焚き
2. 活動総括

講師・担当者

新庄東山焼弥瓶窯

涌井正和

昨年受講生の感想 地域教育文化学部 船橋 薫乃

私はこのフィールドワークの四日間で焼き物の魅力、新庄東山焼の魅力を存分に感じることができました。実際に新庄市へ行き、涌井さんのお話を聞いたり、新庄焼きやそのほかのたくさんの焼き物に自分で触れたり、作陶体験をすることでもっともっとその魅力をわかることができたと思います。実際にろくろを使うのは本当に難しく何度か失敗してしまいました。なんとか完成させた作品は不恰好ではありますが、私にとってとても大切なものとなっています。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課



目的・概要

「川西町河川公園を愛する会」は、町内を流れる川の環境保全活動や河川公園の整備を継続しながら、地域住民の協働や交流が深まるようにと「水辺のコンサート」を開いている。
会のみなさんと一緒に指首野川流域を視察し、環境保全活動やコンサート運営を体験してもらおう。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年6月6日、7日

- ① 1日目 「河川公園を愛する会」活動概要
→指首野川源流体験→交流会
- ② 2日目 公園整備作業体験→
水辺のコンサート準備、運営→
振り返り活動

2 回目の訪問

平成27年6月27日、28日

- ① 1日目 ・水辺探訪(湧水群 指首野川流域)
- ② 2日目 ・自然環境保全活動
・意見交換会

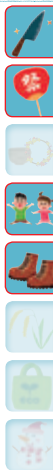
講師・担当者

川西町河川公園を愛する会 会長 江口清治
地元講師 水澤充夫

昨年の受講生の感想 農学部 中山 響

今回の4日間にわたるフィールドワークでは、今までにない貴重な経験ができ、沢山の事が得られた。また、新庄市の歴史に触れ地域の方々と交流していく中で、見聞の広がりや精神的な成長もできたと思う。特に印象に残り、考えを巡らせたことが多かったのは第1回目の活動だった。指首野川に行き、初めて川の源流を体験した。川の水は、過去に調査した地元の川に比べ非常に澄んでいて、川の周りも自然で溢れ非常に綺麗だった。かなり急な流れの中胴長を履いて歩き、何度も足を取られそうになったことも深く印象に残っている。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課



目的・概要

山屋地区を舞台として、この時期に旬を迎える筍(たけのこ)を味わう“たけのこまつり”への参加、また、^{もとくそ}杵蔵山登山やキャンプ場での活動、薬師堂や観音菩薩の歴史遺産の探索など、さまざまな体験を通して当地区のもつ豊かな自然や歴史を学んでもらう。そして、地域住民や子ども達との交流を通して、地域資源を活かした山屋地区の魅力を探ってもらう。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年6月6日、7日

- ① 1日目 たけのこまつり参加→
地域との交流
- ② 2日目 地域の宝探し→キャンプ場整備
→振り返り活動

2 回目の訪問

平成27年7月11日、12日

- ① 1日目 キャンプ場での活動→
手作り体験→地域との交流
- ② 2日目 歴史遺産の視察→
まとめ及び提言の発表

講師・担当者

山屋地区連合会 会長

渡部竹三

昨年²⁰¹⁵の受講生の感想 地域教育文化学部 清水 香林

山屋地区の魅力は壮大な自然があることだ。今回山屋セミナーハウスに宿泊したがその周りも多くの自然で囲まれていた。田んぼや畑、山々など多くの緑に囲まれて涼しくリフレッシュが出来た。4日間の活動を通して、山屋地区の人々の優しさ、暖かさに触れて自分も大きく成長できた。そして地域の人の山屋への熱い思いを感じ取ることが出来て本当に良かった。今回学んだことをこれからの生活に生かし、また山屋の魅力を周りの人に伝えていきたいと思った。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課



目的・概要

「また来てね!」 地区の子供たちが、ぶんこうを後にバスに乗る学生の手を握って離さない。こんなに地区の子供惹きつけるものは、地区の人々の目では見つけることができない、路傍の雑草のように消えようとしている資源・文化等の素晴らしさを皆さんと一緒に見つけた感激と感動がそうさせたのである。学生の皆さん! 力を貸して下さい。知恵を貸して下さい。「急速に失われつつある地域の宝物!」ホトケドジョウやゲンジボタル・他では見つけることのできないチョウチョ。人と人のつながるホームステイの地域。次世代にそのままで引き継いでいくのが責任世代としての私たちの仕事です。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年6月27日、28日

- 講話 「山里 田茂沢の今と昔」
- 実習 ホテル観察
- 実習 ビオトープの生き物調査
- 実習 山の幸「山菜取り」

2 回目の訪問

平成27年7月25日、26日

- 講話 「森と町と人のミュージアム」
- 実習 そば打ち体験
- 実習 木工クラフト・リース作り
- 実習 世代交流・スポレク大会

講師・担当者

道草ぶんこう運営委員会 委員長 須藤幸一

昨年の受講生の感想 農学部 川崎 真由

私は、フィールドワークがみを通じて様々なことを学ぶことができた。
 まず、自分が知らないだけで、田舎にはたくさんの魅力があることがわかった。それは、自然の豊かさ、人のあたたかさ、新鮮な山菜や野菜のおいしさなど、言葉で片付けてしまえば田舎にはありふれているように感じてしまうが、これらを実際に体感できたことは私にとってとても心に残った。特に、ホームステイ先では、素敵な料理でもてなしてもらったり、自分では考えたことのない人生のお話を聞かせてもらったりし、田舎の人ならではのあたたかい気持ちに触れることができてとてもうれしかった。

担当者 道草ぶんこう運営委員会



目的・概要

目的：谷口銀山史跡保存会のガイドの元、散策道や坑道の整備活動を通して、谷口銀山が繁栄していた当時の様子を探ることを目的とします。

概要：現存する坑道に入り、谷口銀山の歴史を体験していただきます。地元の史跡保存会の方と共に、銀山周辺道及び、坑道内の整備活動を行い交流を深め、歴史的・地域資源としての保存・活用を共に探究します。また、谷口銀山は未発見の入口や坑道が数多く存在します。当時の絵図を基に、それらを探すレクレーションを実施します！

授業計画

1 回目の訪問

平成27年5月30日、31日

谷口銀山の歴史について講義
谷口銀山坑道整備
吉次山登山

2 回目の訪問

平成27年7月18日、19日

谷口銀山坑道探索
神社境内の環境整備
保存会との交流会

講師・担当者

谷口銀山史跡保存会 会長 近岡栄一

昨年受講生の感想 工学部 大利 拓海

銀山の探索では実際に坑道に入ってみたいと体験できない坑道内の狭さや温度、生息している生き物などを見たり、感じたりすることができました。生息していた生き物でコウモリはこういうところに来ないと思えることができないので最初見たときは驚きました。また、銀山の整備では機械を使わず手作業で行ったので大変で、昔の銀山の発掘を行っていた方々の苦勞を少しですが身をもって感じる事ができました。

担当者 金山町教育委員会 沼澤尚史

森と人との共存を考える I ～山間地の歴史を探り地域振興へ～



目的・概要

遊学の森は、金山町有屋屋内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っておりますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

授業計画

1回目の訪問

平成27年6月13日、14日

講話 「金山町の自然を知る」

実習 森の祭典

実習 食の体験(山菜)

2回目の訪問

平成27年7月18日、19日

講話 「有屋峠の歴史に迫る」

実習 登山

実習 伝統芸能に触れる

講師・担当者

遊学の森案内人会 会長

笹原忠昭

昨年の受講生の感想 工学部 大河原 雑

このフィールドワークを通して、地域の魅力や課題を発見する力が鍛えられただけでなく、もっと根本的部分、ディスカッション(話し合い)の重要性や積極的に意見を言う大切さを再認識できた。一人では絶対にここまでいくことは出来なかった。金山町の方々と班員に、感謝するばかりだ。

担当者 遊学の森案内人会



目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得すること目的とする。

共に荒廃した農地等の再生活動を行うことによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

- 地域学講座(地域の方との懇談会)
- 生物多様性の環境保全活動
- 食と農の体験活動

授業計画

1 回目の訪問

平成27年5月16日、17日

手倉森・ふながた薬師の森の森林保全活動

手倉森:原木にシイタケ、ナメコの植菌活動

薬師の森:ブナ林の歩道修繕・調査活動

2 回目の訪問

平成27年5月30日、31日

手倉森・ふながた薬師の森の森林保全活動

手倉森:湿地の木道補修活動

薬師の森:オカリナコンサートスタッフ活動

講師・担当者

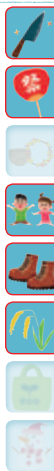
会員及び地域住民

 昨年の受講生の感想 農学部 早川 弘夢

舟形町での4日間は私にとって貴重な体験だらけの4日間でした。特に植菌体験や木道の修繕等は普段の生活で行う事等全くないと思います。また、そういった経験をさせていただくだけでなく、地域の課題を地元の方の生活を通して聞くことができました。そのため、地域の課題を自分の地元の状況と比較しながら、より一層深く考えられたと思います。本当に舟形町にいてよかったです。

担当者 プナの実21事務局 大山邦博

地域から元気と力を！ 伝承文化活性化プロジェクト



目的・概要

獅子神楽の一種である神事芸「番楽」^{ばんがく}は、江戸時代に秋田県矢島地方から伝わってきたとされており、当町では3つの地域において今日まで伝承されています。その1つに「八敷代番楽」^{はっしきだいらんがく}があり、歴史は町内で最も古く、地域内に彫師がいたことから多くの「面」が現在も残されています。

このプログラムでは、永きにわたりその保存・継承に取り組む「八敷代番楽保存会」の活動の一端を体験するとともに、会員の方々や子どもたちとの交流を通して、伝承文化の新たな魅力の創生とそれらを核にした地域の活性化について学生ならではの視点で提言を発表していただきます。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年6月13日、14日

- 八敷代番楽を体験
- ^{こしきやま} 甌山の巨木を見学

2 回目の訪問

平成27年7月11日、12日

- 郷土料理作りを体験
- 学生による提言発表

講師・担当者

八敷代番楽保存会 会長

佐藤隆一
（ほか）

New program!

このプログラムは初めて実施されるプログラムです！
熱意あふれる皆さんの受講をお待ちしております！！

担当者 真室川町教育委員会教育課 生涯学習・スポーツ担当



目的・概要

目的: 神室少年自然の家企画事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

概要: 自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、企画事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが変容、成長する手助けすることで、自己を磨いていく。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年6月6日、7日

企画事業 「わんぱく探検隊～春～」

小学3・4年生対象事業の支援

- 班付きスタッフ
- 野外炊飯
- テント泊
- 火おこし
- キャンプファイヤー

2 回目の訪問

平成27年7月 11日、12日

企画事業 「わんぱく探検隊～夏～」

1回目と同じ児童対象

- 班付きスタッフ
- 野外炊飯
- テント泊
- ポートでの川上り
- ダイビング など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想 理学部 五十嵐 諒

私はこの活動に参加できたことをとても幸せに感じている。なぜならば、私はこのフィールドワークを通して将来の夢へ一歩前進できたからである。私は将来、数学の教師になることが夢で、子供との接し方を学ぶためにこの活動に参加したわけだが、結論から言うと大成功であった。もちろん全部が全部うまくいったわけではないが、挫折も含めて良い経験であった。

担当者 山形県神室少年自然の家 研修主事



目的・概要

大蔵村の自然と文化を地域の人々と関わりを通して体験し、自然と共存して生きる人々の生活と知恵を学ぶ。1回目は、村の観光パンフレットづくりの学習を行い、肘折温泉で人力車を引き、観光に携わっている方から温泉の歴史や散策しながらの観光学習をしていただきます。また、大蔵村伝統芸能・大蔵村指定文化財の巨木等の文化学習及び日本棚田百選に認定された「四ヶ村の棚田」視察学習、縁結びの神として知られる「地藏倉」へのミニ登山などを行い、地域に根づく伝承・伝統行事を通して、大蔵の自然文化についての体験学習。2回目は、平成23年度文部科学大臣賞を受賞した鈴木征一さんによる「肘折こけし」の「絵付け体験」、収穫されたそば粉で「そば打ち体験」の学習を行い、「大蔵村自然塾」では小学生と一緒に森林学習を行います。また、高齢者の方々による郷土料理教室も開催。

授業計画

1回目の訪問

平成27年5月30日、31日

肘折温泉街散策
地藏倉登山
マップづくり

2回目の訪問

平成27年6月6日、7日

こけしの絵付け体験
そば打ち体験
マップづくり

講師・担当者

合海田植え踊り保存会
肘折こけし工人
大蔵村観光ガイド
大蔵村文化財保護委員
ふるさと味来館

松田与市
鈴木征一
佐藤則夫
熊谷勝保
須藤千代子

昨年の受講生の感想 人文学部 小野 倫子

実際に大蔵村を訪れてみて、村の魅力を沢山見つけることが出来ました。まず、村に着いて感じたのは、とてもどかか、緑が多いことでした。村にコンビニがないと聞いたときは、驚きましたが、大蔵村は便利さよりもっと素晴らしい魅力に溢れていました。短い期間でしたが、私は、このフィールドワークを通して自分の視野を広げることが出来ました。大蔵村で学んだことをこれからの大学生活で活かしていきたいです。私たちの学習にご協力してくださった方々に感謝しています。また是非、大蔵村を訪れたいです。

担当者 大蔵村教育委員会 主任 松田祐介



目的・概要

鮭川村に伝わる伝統芸能・鮭川歌舞伎。その年に一度の定期公演に参加し、農村に伝わる地歌舞伎を体感し、地域の文化を学ぶ。そこから、伝統文化を後世に伝えていくにはどうしたらいいか。これからの地域づくりにどう活かしたらよいかを学ぶ。また、自然保護活動を行っているモデル地区・鮭川村米地区で自然保護体験を行い、環境の側面からも地域を維持していく大切さを学ぶ。1回目と2回目を合わせ、文化と環境というふたつの側面より、地域を次世代に向けて維持していくことを考える。

授業計画

1回目の訪問

平成27年6月13日、14日

- 鮭川歌舞伎定期公演の運営・準備
- 歌舞伎見学
- 伝統芸能についての学習

2回目の訪問

平成27年7月11日、12日

- 里地里山の保全整備体験
- そば打ち体験
- 米湿原散策

講師・担当者

鮭川歌舞伎保存会・座長 高橋眞一
 鮭川歌舞伎保存会・事務局長 佐藤成一
 ネイチャアカデミーもがみ代表理事 矢口末吉

昨年を受講生の感想 地域教育文化学部 岩堀 悠花

鮭川歌舞伎に触れて、こんな小さなむらにずっと守り続けてきたことに感動しました。私は特別に歌舞伎化粧をしてもらい人生初で、この先ももう体験できないだろうという特別な体験をさせていただきました。劇中汗をかいても化粧が崩れない工夫などを聞きました。こんな素晴らしい歌舞伎がある鮭川村を今後もっとたくさんの人々に知ってもらいたい、歌舞伎を後世に残すために若者に村にもどってもらいたいと思った。

担当者 鮭川村教育委員会 横山潔

戸沢村の超元氣印! 幸齢者集団の生き様に学ぶ



目的・概要

1回目は、幸齢者のみなさんと古代米の田植えやメダカ池の環境整備をし、2回目はほたる祭りと炭焼き等を行います。特にほたる祭りについては、企画運営を担っていただきます。これらのプログラムを通して、学生のみなさんには、コミュニケーション能力や企画力、プレゼン能力、協調性等を育む一助となればと思います。地域においては、この事業を実施する上で、地域のいろんな団体、人の協力や知恵が必要となることから、地域の活性化やコミュニティーの再生が図られると思われれます。

授業計画

1回目の訪問

平成27年5月30日、31日

座学or笹まきづくり
農作業体験(田植)
ツリーハウス作りorめだか保護池整備
ほたる祭り企画会議

2回目の訪問

平成27年6月27日、28日

ほたる祭り運営、発表
炭焼体験とビザづくり
わら細工

講師・担当者

北の妙創郷大学 学長
乙夜塾 塾長
古口自治会 会長

菊地清一
門脇憲一
門脇藤一

昨年の受講生の感想 工学部 石川 里緒

私にとって、ほたる祭りまでの1か月を含めたこのFWは言葉にならないくらい楽しく、最後は自然と涙がこぼれました。地域の方々の温かさを感じ、このプログラムに参加することができて本当に良かったです。普段の大学生活では決して体験できないような、貴重な時間を過ごすことができました。地域の方もおっしゃっていましたが、大学生の私たちが古口のためにできることは、つながりを持ち続けることだと私は考えます。ですから、応用編にも積極的に参加し、これからも村の人達とのつながりを大切にしていきたいです。

担当者 北の妙創郷大学 事務局 佐藤雄次



目的・概要

四方を山々に囲まれた角川地域は、山からの恵みが豊富である。この山を守り、利用する活動を行う。里山のナラ枯れ防止対策にも資する炭焼き、森林の管理作業、山菜採り、山菜料理作り、木工細工などの活動を体験する。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年5月30日、31日

- ① 日目 炭焼き材(ナラ)の窯入れと火入れを行う。午後は、里山の自然観察と山菜採りを体験する。
- ② 日目 山菜を使った料理づくりをする。午後は炭焼きの前工程の伐倒したナラの枝払い・小間切り・木割り・運搬を行う。

2 回目の訪問

平成27年6月27日、28日

- ① 日目 山菜採りとその調理を体験する。午後から焼きあがった炭の窯出しを行う。
- ② 日目 杉林の除伐・間伐を行う。午後から様々な木材を利用して、木工細工を行う。

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局
スタッフ及び角川地区の講師

New program!

このプログラムは初めて実施されるプログラムです!
熱意あふれる皆さんの受講をお待ちしております!!

担当者 田舎体験塾つのかわの里



目的・概要

当地域で栽培されている夏から秋に採れる野菜づくりに挑戦する。定植や種まきの方法、管理の方法を学ぶ。野菜の持つ栄養価・滋養効果や郷土料理に隠れた暮らしの文化を学ぶ。一回目は、午前中そば打ち体験を行いそれを昼食にする。畑づくりや苗の定植を体験する。また、周辺で栽培されている様々な野菜栽培の栽培状況の見学を行う。また、おかひじきの収穫・袋詰めを体験する。二回目は野菜の収穫を行い、それを主にした郷土料理づくりを行い、昼食のメニューに加える。成長した野菜の管理(整枝・誘因・草取りなど)を体験する。最上伝承野菜に指定されている角川かぶの畑づくり(焼畑)・播種作業を行う。

授業計画

1回目の訪問

平成27年6月13日、14日

- 1日目 そば打ち体験、野菜の畑づくり・苗の定植・種まきを体験する。周辺の野菜栽培の見学を行う。
- 2日目 おかひじきの収穫・袋詰め・箱詰めを行う。午後は畑の管理作業(間引き)を体験する。

2回目の訪問

平成27年7月25日、26日

- 1日目 野菜の収穫とそれを使った郷土料理づくりを行う。午後は野菜の管理作業(整枝・誘因・草取りなど)を体験する。
- 2日目 秋野菜の種まきを行う。午後は角川かぶの畑づくり(焼畑)と播種作業を行う。

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局
スタッフ及び角川地区の講師

昨年の受講生の感想 農学部 齊藤 葵

私は実際に農作業を体験し、農家の方と対話をする中で、私たちが日々食べている食糧を作ることに対して農家さんたちがどう考えているのか、どのような思いが農作物には込められているのかということを知りたいと思い、このフィールドワークへの参加を希望しました。今回の4日間学び、得たことは農家さんの野菜作りに対する気持ちだけではなく、戸沢村の方々の優しさ、地域のつながり、農業と密接にかかわる自然の姿など、机上では学ぶことができない多くのことを教わりました。

担当者 田舎体験塾つのかわの里



後期



まちの図書館を舞台にイベント プロデュース～図書館まつりをジャック!する～



目的・概要

新庄市立図書館のメイン行事として、毎年秋に開催される市民協働事業「図書館まつり」。この「図書館まつり」を舞台に、ボランティアの方々と交流を図りながら、イベントの企画から運営まで、スタッフとして体験してもらおう。読み聞かせ・紙芝居体験発表をはじめ、ワークショップサポーターなど、他のスタッフが担当するブースの体験や山形大学ブースを開設し、イベントをプロデュースするなど、自ら計画立案し実行する。特に、若い世代に読書の魅力や図書館をPRできるような企画を掘り起こしてもらいたい。魅力あるまちづくりを目指し、図書館から地域に新しい風を吹き込む学生のパワーをぜひ期待しています。!!

授業計画

1 回目の訪問

平成27年11月14日、15日

① 日目 図書館まつりの参加協力体験

② 日目 読み聞かせ講座・計画立案

2 回目の訪問

平成27年11月28日、29日

① 日目 おはなし会体験、運営・準備、講演会参加

② 日目 山形大学生による図書館まつり、感想交流

講師・担当者

新庄市立図書館館長 高橋一枝
図書館ボランティアサークルかやのみ会 会長 須藤敏枝

昨年の受講生の感想 工学部 馬淵 仁美

山大生の企画を前日から準備していて本当に人が来てくれるのだろうかという不安があったが小さい子供を連れた親子や勉強しに来ていた中高生など呼び込みの甲斐があっているいろんな人が来てくださって「楽しかったよ」って言ってもらってとても嬉しかった。今回のフィールドワーク1週間という短い期間ながら、メンバー全員で企画できたことは私にとって大きな糧になった。この経験を大切にしていきたい。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課



目的・概要

「ごまかしのない食品」に対する理解を深め、実際の食品製造を体験する。安全安心な食品づくりに関する著書を多数執筆する磯部晶策氏が語る、消費者の立場から食品を見分ける4条件、生産者視点から食品を見分ける4原則などを、講義及び実技を通して学んでいく。

授業計画

1回目の訪問

平成27年11月7日、8日

- ①日 目 解説：加工食品の変遷(大量生産へ)→甘味処「悠豆里庵」の品々の実演・実習→餅の製造工程見学
- ②日 目 講義：原材料・表示・添加物の表と裏→餡づくり①(ごまかしのない食品)

2回目の訪問

平成27年11月14日、15日

- ①日 目 講義：食品に関する情報→甘味物実習→餡づくり②
- ②日 目 講義：輸入食品の品質・表示→実習：自分で作る甘味物→振り返り(自分の食生活・消費生活)

講師・担当者

(有)佐藤製餡所 代表取締役 佐藤勝也
甘味所「悠豆里庵」 店主 佐藤和美

昨年の受講生の感想 人文学部 藤澤 実那

今回、フィールドワークに参加して、食品を作るとはということなのかということを知ることができた。食品を作る側も、自分で作らない食品に関しては、一人の消費者であるという佐藤さんのお話がとても印象的だった。食品を作る際には、作る側の都合だけでなく、その食品を消費する人のことを考えて作ることが大切だということを知った。
また、地域の方とも様々な話をすることができて、食品づくりだけでなく、地域の今についても知ることができた。このプログラムに参加することができて、自分にとって、他の講義では得られない貴重な体験になってとてもよかった。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

七所明神伝説と
地域活動のあり方を探る

目的・概要

七所明神は、十六代天皇の皇子である大山守皇子の体を七つに斬り、それぞれの部位が祀られているという由来のある神社である。新庄市を中心に七ヶ所の七所明神があるが、その一つが新庄市宮内地区にある。宮内地区には皇子の頭の部位が祀られているという。そういった七所明神の伝説に触れ、学んでもらい、そして、御祭燈祭りや伝統工芸の制作などを通して、新庄市宮内地区における地域活動のあり方を探ってもらう。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年11月7日、8日

- ① 1日目 七所明神について講話→七所明神巡り
- ② 2日目 萱刈作業→芋煮→絵馬製作

2 回目の訪問

平成28年1月9日、10日

- ① 1日目 御祭燈祭準備→もちつき体験→御祭燈祭
- ② 2日目 御祭燈祭後片付け→伝統工芸(はげご)製作→活動に対する感想と提言

講師・担当者

七所明神の環境を良くする会

昨年の受講生の感想 基盤教育院 馬 林娜

私は短期留学生として、このプログラムに参加できて、本当に良かったと思う。
二回目のフィールドワークでは御祭燈祭りに参加した。雪で灯籠を作ったり、御祭燈の準備をしたり、皆さんと一緒に協力して、とても楽しめた。神様を呼ぶ儀式は本当に神聖だった。人々は神様にこれから一年の願いを伝えて、二礼二拍手一礼をしてから、祭燈の点火はとてもきれいだと思った。日が暮れてから、神社に来る福を祈る人たちに甘酒と玉こんにゃくと餅を配った。伝統的な神社での祭りに参加できて、いろんなことを学んだ。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課



目的・概要

高度成長期の競争社会で、山間地の生活文化から滲み出ていた、人と人をつないでいた「結い」や「講」が無くなりつつあります。今、その切れそうになった糸を、もう一度一本一本つなぎ直して、今後、どんなことがあっても切れないようにしていきたいと思います。そのため、7年前から、地域総合文化祭「さわやか祭」と子どもが主役の「なし団子まつり」を開催し、地域住民のつながる地域社会を目指して活動しています。当地区の二大イベントに参加され、皆さんの新鮮な感覚でこのお祭りを盛り上げていただき、新たな地域文化を創造していきたいと思います。皆さんのお知恵と行動力に期待しています。宿泊は、もちろんホームステイでお持ちしています。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年10月31日、11月1日

講話 「さわやか祭」について

実習 さわやか祭の準備

実習 さわやか祭りへの参画

2 回目の訪問

平成27年12月5日、6日

講話 伝統行事「なし団子まつり」

実習 なし団子まつりの飾りづくり、冬支度

討議 地域文化活動の創造に向けた提言

講師・担当者

道草ぶんこう運営委員会 委員長 須藤幸一

昨年の受講生の感想 理学部 小野 寛成

私は前期に引き続き、ここ金山町の田茂沢地区でフィールドワークを受講しました。主に、「また行きたい」と思ったからです。

今回は、地域の祭りや暮らしなど文化を体験し、その由来や歴史についてもお話を聞きました。もちろんこの文化や生活はここ田茂沢ならではのものであり、私にとって初めて見たり知ったりするものも多くありました。現代、日本全国どこにでもそれぞれの地域独自の文化がありますが、その中の一つをこうして経験できたことはとても素晴らしいことだと思います。

担当者 道草ぶんこう運営委員会



目的・概要

遊学の森は、金山町有屋屋内にあり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っていますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

授業計画

1回目の訪問

平成27年12月5日・6日

講話 金山町の自然を知る

実習 荒廃した森林で鳥取り
リースづくりを楽しむ

実習 伝統芸能「柳原番楽」の見学

2回目の訪問

平成28年1月9日・10日

講話 金山町の歴史民俗

実習 里山の食文化「たら靴、
納豆づくり」など

実習 有屋少年番楽の見学

講師・担当者

遊学の森案内人会 会長

笹原忠昭

昨年の受講生の感想

地域教育文化学 部 佐藤 丹梨

この4日間の貴重な体験を通し、私は自然の大切さ、昔からの伝統を受け継ぐことの大切さを改めて感じた。私が金山町にきて驚いたことは、今まで経験したことがないほどの雪の量である。しかし、雪だるま作りなどの雪遊びをはじめ、カントリースキーやモービルなど、雪の多い雪国ならではのさまざまな体験ができた。地域の方の話によると、1日に5回以上も雪かきをしなければならぬという。私は、たった1回の雪かきでも疲れを感じたのに、地域の人、ましてお年寄りの方にとって何度もやらなければならないのは本当に大変なことであり、若い人の力の必要性を強く感じた。

担当者 遊学の森案内人会

冒険家と語らい、
地域の伝統文化に触れよう

目的・概要

普段は決して聞くことの出来ない、世界的冒険家「大場満郎」さんの南極北極の話
を聞けば、人生経験値がよ上がること間違いありません。また、冒険学校名物の
ピザをみんなで焼いて食べましょう。また、最上町の中でも特に地域づくりに力を
入れている東法田地区でそば打ち体験とリース作りを行いながら地域づくりにつ
いて住民の方からお話を聞きましょう。そして、最上町総合芸術文化祭の運営ス
タッフとして、最上町の伝統芸能を肌で感じてください。最上町一同お待ちしております。

授業計画

1 回目の訪問

平成27年10月31日、11月1日

なたぎり
山刀伐峠トレッキング

最上町芸文祭運営スタッフ

2 回目の訪問

平成27年11月7日、8日

大場満郎冒険学校での講演
東法田地区でそば打ち・リース作り

講師・担当者

大場満郎冒険学校 校長 大場満郎
最上町東法田地区の皆さん
最上町芸術文化団体連絡協議会 会長 佐々木良
最上町教育委員会社会教育係

昨年の受講生の感想 地域教育文化部 加賀 竜也

活動のなかでも特に心に残っているのは、大場満郎さ
んの講演である。冒険の話も、なかなか聞くことので
きない貴重なものでこれからの為になる話だったが、
私の心により響いたのは人生観の話だった。大場さん
の話には、「自分は世間を知らなかったがために純粹
にやりたいことができた」とあり、自分を貫き通した
からこそ大記録を打ち立てることができたのだと感じ
た。楽しい時もあり勉強にもなる最高の四日間であっ
た。

担当者 最上町教育委員会 社会教育係



目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得すること目的とする。

共に荒廃した農地等の再生を活動を行うことによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

- 地域学講座(地域の方との懇談会)
- 生物多様性の環境保全活動
- 食と農の体験活動

授業計画

1回目の訪問

平成27年10月31日、11月1日

手倉森・ふながた薬師の森の森林保全・農産物収穫活動

手倉森: シイタケ、ナメコの収穫・
収穫感謝祭スタッフ活動

薬師の森: ブナ林の歩道調査活動
大根、白菜、ネギなどの収穫活動

2回目の訪問

平成27年11月21日、22日

手倉森・ふながた薬師の森の森林保全・農産物収穫活動

手倉森: 雪囲い体験活動

薬師の森: ブナ林の歩道修繕・調査活動
大根、白菜、ネギなど収穫体験

講師・担当者

会員及び地域住民

昨年の受講生の感想 工学部 荒谷 康介

2回のフィールドワークを通して、自然と触れ合い、普段ではなかなか体験することのできないことが体験できた。例えば、きのこ採りや雪囲い、木の伐採の作業の手伝いなどである。どれも初めての経験だった。特に、自分たちで採ったきのこはとても美味しかった。この4日間でたくさんのお話を学び、考えさせられた。様々な地域の問題を考える良いきっかけにもなった。この4日間で学んだことを今後の活動報告会や将来に活かしていきたい。

担当者 ブナの実21事務局 大山邦博



目的・概要

目的: 神室少年自然の家企画事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

概要: 自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、企画事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが変容、成長する手助けすることで、自己を磨いていく。

後期
8

授業計画

1 回目の訪問

平成27年11月21日、22日

企画事業 「わんぱく探検隊～秋～」

小学3・4年生対象事業の支援

- 班付きスタッフ
- 野外炊飯
- テント泊
- ハイキング など

2 回目の訪問

平成28年1月9日、10日

企画事業 「わんぱく探検隊～冬～」

年間通じて同じ児童対象

- 班付きスタッフ
- 野外炊飯
- 雪中テント泊
- 雪遊び など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想 医学部 茂藤 優司

今回のフィールドワークで学んだことは、子供と目線を合わせることで、わかりやすい言葉で伝えること、お互いに名前呼び合い、触れ合うことによって関係が深まっていくのではないかとということである。それと、学年によって子ども達は大きく変化していくので、一律に対応することは難しい。しかし、言葉の選び方によって子どもの行動に変化が出てくるので、これからはほめる、叱る、問いかける、客観的に見るなど、場面に応じて使い分けられるようになっていけたらいいのではないかと思います。

担当者 山形県神室少年自然の家 研修主事



目的・概要

角川地域の学校教育で始まった和太鼓演奏が地域の保護者をも巻き込み、平成9年に「角川太鼓の会」が結成され活動を続けている。農山村の趣向を取り入れた演奏曲をつくり、イベントなどで好評を博しており、これらと太鼓の魅力を体験する。冬の里山暮らし体験は、農山村の冬の暮らしの一部を体験して頂き、今日に引き継がれている農山村の文化に触れて頂く。

授業計画

1回目の訪問

平成27年12月5日、6日

- ①日目 そらり作り・漬物づくり。
- ②日目 角川太鼓演奏の披露・太鼓基礎練習・曲演奏練習を行う。

2回目の訪問

平成28年1月9日、10日

- ①日目 かまくら作り・かんじきハイキング・御柴灯(火よけの催事)を体験する。
- ②日目 太鼓の曲練習を行い、最後に太鼓演奏の発表を行う。

講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里
事務局スタッフ及び角川地区の講師

昨年の受講生の感想 地域教育文化部 石橋 郁美

わたしが四日間の戸沢村の体験を通して強く印象に残ったことは、地域の方々の繋がりが強くみんな仲が良いということです。特に、角川太鼓の体験の際に強くその印象を受けました。様々な世代のメンバーがそれぞれの能力にあった楽器を演奏し、一つの曲が生み出されているというのが見ていてとても感動したしとても素晴らしいと感じました。また、まだ伝統が浅いからこそなんとか次世代に繋げていこうと大人が子供に伝承している姿も見ていて心が温かくなりました。

担当者 田舎体験塾つのかわの里



皆様の
お越しを
お待ちしております



●エリアキャンパスもがみ 大学事務局

山形大学 小白川キャンパス事務部 教務課教育企画担当

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

TEL:023-628-4707

FAX:023-628-4720

E-Mail:acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●エリアキャンパスもがみ 最上事務局

〒996-0079 新庄市千門町17-26

最上広域教育研究センター内

(平成27年9月移転予定)

TEL&FAX:0233-22-1057

●フィールドワークホームページ

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/>

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。